「大阪商業大学 AI・データサイエンス教育プログラム(基礎)」自己点検・評価報告書【2024 年度】

2025 年 5 月 23 日

情報教育委員会

大阪商業大学
Osaka University of Commerce

目次

1. 自己点検・評価の実施 2
2. 教育プログラムの概要 2
3. 履修・修得状況 3
4. 学修成果 5
5. 学生の内容の理解度 5
6. 他の学生への推奨度 6
7. 履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 6
8. 修了者の進路・活躍状況、企業等の評価 8
9. 産業界等社会からの視点を含む内容・手法等への意見 8
10. まとめにかえて 9

1. 自己点検・評価の実施

2024 年度に実施した「大阪商業大学 AI・データサイエンス教育プログラム（基礎)」(以下、必要に応じて「本教育プログラム」と称す）について、情報教育委員会で自己点検・評価を実施した。点検・評価項目は以下のとおりである。

＜学内からの視点＞

- 本教育プログラムの履修・修得状況
- 本教育プログラムの学修成果
- 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度
- 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

＜学外からの視点＞

- 教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価
- 産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法等への意見

自己点検・評価に使用したエビデンス資料は以下の通りである。

(1) 履修者、単位修得者に関する教務データ

(2) FD 委員会による授業評価アンケート（全学年対象）

(3) データサイエンス教育推進部会による以下の取り組み

(3)-1 本教育プログラム対象学生（2024 年度は 1 年生と 2 年生）に対する意識調査アンケート

(3)-2 本教育プログラム対象科目受講生（1・2 年生に限定）に対する意識調査アンケート

(3)-3 他大学教員による外部評価

※ 本教育プログラム対象科目担当教員ならびに情報教育委員会、データサイエンス教育推進部会の委員・部会員間でこれらの情報を共有し、本教育プログラムの改善に役立てている。

2. 教育プログラムの概要

大阪商業大学では、2023 年度以降「大阪商業大学 AI・データサイエンス教育プログラム（基礎)」を実施している。本教育プログラムは 2024 年 8 月、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル)」に認定されている。

以下は「履修の手引き」に掲載された本教育プログラムに関する説明個所の抜粋である。

3.AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）

本学では、AI・データサイエンスの基礎を学ぶ「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」を設置しています。このプログラムでは、Society5.0※時代の社会で活躍するための基礎素養であるAI・データサイエンスの基礎を学び、それらを業務に効果的に利活用することができる能力を身につけることができます。

このプログラムを修了した学生には、修了証が発行されます。発行の手続きは「S-Navi！」でお知らせします。

※「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上５番目の新しい社会

■このプログラムでは以下の項目について学びます

①データ・AI利活用に関する基礎知識

世の中のどのようなところでデータ・AIが利活用されているか、また、データ・AIを扱うための留意事項などを学びます。

②社会で活躍するために必要なデータリテラシー

データを適切に読み解き、加工し、伝えるための知識とスキルを学びます。

【対象科目（修得に必要な単位：６単位以上）】

区　分	授業科目名	配当年次	単位数	プログラムにおける必選
情報科目・情報基礎領域	情報処理概論	1	2	◎
	データリテラシー	1	2	△
ソフトパワー関係科目・人間関係性領域	情報社会と倫理	1	2	◎
	社会調査法	1	2	△

◎の科目はプログラムの必修科目です。プログラムを修了するためには、必ず修得してください。

△の科目はプログラムの選択必修科目です。プログラムを修了するためには、△から２単位以上を修得してください。

※　本教育プログラム対象科目は、副専攻科目として、すべての学部で受講可能。

※　社会調査法は、社会調査士関連科目の必修科目でもある。

3. 履修・修得状況

【エビデンス】本教育プログラムの対象科目の履修・単位修得状況、本教育プログラム修了状況

2024年度 大阪商業大学AI・データサイエンス教育プログラム（基礎） 対象科目履修・合格状況　※休学・除籍・退学者を含む

学期	科目名	状況	2023年度（2024/3/31現在）		2024年度（2025/3/13現在）			
			1年	（参考）全学年	1年	2年	1・2年合計	（参考）全学年
前期	社会調査法【選択必修】	履修者数	211	399	176	142	318	400
		合格者数	156	257	137	94	231	281
		合格率	73.9%	64.4%	77.8%	66.2%	72.6%	70.3%
	情報処理概論【必修】	履修者数	225	476	369	179	548	710
		合格者数	156	328	299	139	438	550
		合格率	69.3%	68.9%	81.0%	77.7%	79.9%	77.5%
後期	社会調査法【選択必修】	履修者数			207	72	279	348
		合格者数			150	48	198	244
		合格率			72.5%	66.7%	71.0%	70.1%
	データリテラシー【選択必修】	履修者数	128	182	71	64	135	171
		合格者数	116	158	52	56	108	138
		合格率	90.6%	86.8%	73.2%	87.5%	80.0%	80.7%
	情報社会と倫理【必修】	履修者数	135	246	326	123	449	557
		合格者数	95	161	242	73	315	381
		合格率	70.4%	65.4%	74.2%	59.3%	70.2%	68.4%

《履修者メータ》累積実履修者数（入学年度別）　2025/5/7

								収容定員［A］	4400	
収容定員（対象学年）［B］	1100	1100	2200	2200	3300	3300	4400	4400	4400	4400

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
入学年度	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2023年度生	387	521	702	799						
2024年度生			502	735						
2025年度生										
2026年度生										
累計［C］	387	521	1204	1534						
対収容定員(対象学年)比［C/B］	35.2%	47.4%	54.7%	69.7%						
対収容定員比［C/A］	8.8%	11.8%	27.4%	34.9%						
申請書記載値		12.0%		28.0%		46.0%		66.0%		70.0%

《修了者メータ》プログラム修了者数（入学年度別）

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
入学年度	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2023年度生	0	15	15	21						
2024年度生			0	55						
2025年度生										
2026年度生										
2026年度生										
期計	0	15	15	76						
累計［D］	0	15	30	106						
対累積実履修者数［D/C］	0.0%	2.9%	2.5%	6.9%						
対収容定員(対象学年)比［D/B］	0.0%	1.4%	1.4%	4.8%						
対収容定員比［D/A］	0.0%	0.3%	0.7%	2.4%						

2025/3/13現在

【評価・改善】本教育プログラムの対象学生は 2023 年度以降の入学生であり、2024 年度は 1 年生と 2 年生が対象である。本教育プログラムの対象科目を履修した学生数は 2024 年度末時点で 1,534 名であり、収容定員比は 34.9%である。これは、文部科学省に提出した申請様式に記載している目標値の 28%を上回る数字となっている。一方、プログラム修了者数は、2024 年度末時点で 106 名であり、収容定員比も低く留まっている。今後、この修了者数の向上に努めたい。本教育プログラムの修了を希望する学生の多くは卒業までに修了できるように履修計画を立てていると推察される。情報教育委員会としては、在学中のさらなる学修の基礎となること、また、就職活動等に生かせること等、本教育プログラムの利点を周知し、2 年次終了までに修了するよう推奨していきたい。

4. 学修成果

【エビデンス】FD 委員会による授業評価アンケート（全学年対象）の結果

設問	科目名	回答者数	5 段階評価の平均値（※）	（参考）2023 年度
関心が持てる授業内容である。	情報処理概論	401	3.8	3.8
	情報社会と倫理	219	4.0	4.2
	社会調査法	397	3.6	3.4
	データリテラシー	62	4.4	4.1
	計	1079	3.8（3.9）	3.8（3.9）

※ 「強くそう思う」を 5、・・・、「全くそう思わない」を 1 とした 5 段階評価の平均値（以下同様）。

※ （）内は科目別平均の 4 科目の平均（以下同様）。

【エビデンス】本教育プログラム対象科目受講生（1・2 年生限定）に対するアンケート調査結果

設問	科目名	回答者数	5 段階評価の平均値	（参考）2023 年度
この授業を受講して AI･データサイエンスに興味をもつことができましたか。	情報処理概論	467	3.5	3.6
	情報社会と倫理	312	3.6	3.8
	社会調査法	431	3.3	3.2
	データリテラシー	78	3.7	3.9
	計	1288	3.5	3.5

【評価・改善】科目による評価値に差はあるが、対象科目全体の集計によれば、「関心が持てる授業内容である」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は、全回答者の約 70%であった。また、対象科目を受講して「AI・データサイエンスに興味をもつことができた」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は、全回答者の約 54%であった。本教育プログラムの受講生に対して AI・データサイエンスにより興味をもってもらえるよう、授業内容や授業運営方法の改善に努めたい。

5. 学生の内容の理解度

【エビデンス】FD 委員会による授業評価アンケート（全学年対象）の結果

設問	科目名	回答者数	5 段階評価の平均値	（参考）2023 年度
授業の内容が理解できている。	情報処理概論	401	3.5	3.5
	情報社会と倫理	219	3.9	4.2
	社会調査法	397	3.4	3.3
	データリテラシー	62	4.2	4.0
	計	1079	3.6（3.8）	3.6（3.8）

【評価・改善】科目による評価値に差はあるが、対象科目全体の集計によれば、「授業の内容が理解できている」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は、全回答者の約 60%であった。担当教員はアンケート調査結果、ならびに、「3. 本教育プログラムの履修・修得状況」で示された科目別合格率（単位修得率）等の教務データに基づき、各自の授業について評価・点検している（担当教員による授業振り返りシートの作成・提出）。学生に対しては、授業内容を確実に理解するため、授業時間外の取り組みであるサポート学習講座（「数学よろず相談」、「パソコン講座」）や担当教員によるオフィスアワーのより積極的な活用を推奨したい。

6. 他の学生への推奨度

【エビデンス】本教育プログラム対象科目受講生（1・2 年生限定）に対するアンケート調査結果

設問	科目名	回答者数	5 段階評価の平均値	（参考）2023 年度
この授業を後輩に勧めたいと思いますか。	情報処理概論	467	3.6	3.6
	情報社会と倫理	312	3.8	3.8
	社会調査法	431	3.6	3.3
	データリテラシー	78	3.9	4.0
	計	1288	3.7	3.6

【評価・改善】「この授業を後輩に勧めたい」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は全回答者の約 61%であった。本設問に対する回答には学生の授業内容に対する満足度が反映されていると考えられるので、この数値を高めるため、各教員が次年度の授業内容、授業運営方法を工夫するとともに、本教育プログラムの意義をより丁寧に説明することを心がけたい。

7. 履修者数･履修率向上に向けた計画の達成･進捗状況

本教育プログラムの履修者数・履修率向上に向けて、学生への周知の強化と、希望する学生が履修しやすい環境の提供に取り組んでいる。これらの取り組みにより、本教育プログラムへのより多くの学生の参加が期待できる。

7-1 学生への周知に関する取り組み

【エビデンス】本教育プログラム対象学生（全 1・2 年生対象）に対するアンケート調査結果

設問	選択肢	回答者数	割合	（参考）2023 年度
あなたはこのアンケート回答前に「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」の存在を知っていましたか。	はい	405	29.2%	19.8%
	いいえ	983	70.8%	80.2%
	計	1388		

【エビデンス】本教育プログラム対象科目受講生（1・2 年生限定）に対するアンケート調査結果

設問	科目名	回答者数	「はい」の割合	（参考）2023 年度
この授業が「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」の対象科目であることを知っていますか。	情報処理概論	467	74.5%	68.7%
	情報社会と倫理	312	72.1%	84.2%
	社会調査法	431	54.5%	45.7%
	データリテラシー	78	73.1%	86.5%
	計	1288	67.2%	66.9%

【評価・改善】全 1・2 年生のうち「本教育プログラムの存在を知っていた」と回答した学生は約 29%であり、2023 年の約 20%に比べて 9 ポイント向上した。ただし、約 70%の学生は本教育プログラムの存在を認知していない。また、対象科目受講生のうち「受講している科目が本教育プログラムの対象科目であることを知っている」と回答した割合は 67%である。本教育プログラムの周知不足が課題となっている点に関しては、他大学教員による外部評価（9. 産業界等社会からの視点を含む内容・手法等への意見）でも指摘されている。本教育プログラムの周知に関して、さらなる改善に取り組みたい。2025 年度に向けて以下の改善を行う。

- 周知用チラシ／ポスターの改訂、利用範囲の拡大（新入生オリエンテーションでの配布等）
- 授業支援システム上に本教育プログラムの周知を目的とするコンテンツを設置
- 本教育プログラムのプロモーション動画の作成と活用
- 本教育プログラム対象学生に対するアンケート調査（周知を兼ねる）の継続実施

【エビデンス】本教育プログラム対象学生（全 1・2 年生）に対するアンケート調査結果

設問	回答者数	5 段階評価の平均値	（参考）2023 年度
あなたは、今後「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」の対象科目を履修して、修了証をもらいたいと思いますか。	1388	3.2	3.2

【エビデンス】本教育プログラム対象科目受講生（1・2 年生限定）に対するアンケート調査結果

設問	科目名	回答者数	5 段階評価の平均値	（参考）2023 年度
あなたは、今後「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」を修了して、修了証をもらいたいと思いますか。	情報処理概論	466	3.9	3.8
	情報社会と倫理	309	3.9	3.8
	社会調査法	428	3.7	3.5
	データリテラシー	76	3.8	3.8
	計	1279	3.8	3.7

【評価・改善】「本教育プログラムを修了して修了証を取得したい」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は、全 1・2 年生を対象としたアンケートでは全回答者の 41%（昨年度は約 37%）、対象科目受講生を対象としたアンケートでは全回答者の 64%（昨年度は約 57%）であった。授業内外で本教育プログラムの有用性、重要性を周知する取り組みを継続し、積極的に本教育プログラムの修了を目指して履修計画を立てるよう推奨していきたい。

7-2 希望する学生が履修しやすい環境の提供

【評価・改善】本教育プログラム対象科目の時間割配置・クラス数について、2024 年度は以下の改善を行った。

- 履修登録者が少ない傾向にある 1 限、5 限への配置を一部回避（実験的取り組み）
- 2023 年度に履修希望者が最大収容定員を超えて抽選となった科目（社会調査法）のクラス数を 1 クラスから 2 クラスに増強
- 本教育プログラム対象科目を可能な限り時間割上重複しない曜日時限に配置（2023 年度から継続）

8. 修了者の進路・活躍状況、企業等の評価

2023 年度以降の入学生を対象としたプログラムであり、本教育プログラムを修了した卒業生は出ていない。したがって、現時点では、本教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について点検・評価はできない。2027 年度以降は、本教育プログラムを修了した卒業生が、企業等で働くようになる。その際には、キャリアサポート室、および、IR（Institutional Research）推進委員会ならびに就業力測定部会による卒業生の活躍状況の調査や企業等の評価に関する点検・評価を実施することを検討している。

9. 産業界等社会からの視点を含む内容・手法等への意見

9-1 企業人による評価

2024 年度は企業人からの外部評価は実施していない。

9-2 他大学教員による評価

数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを先行実施している大学の教授（2 名）による外部評価を実施した。他大学の教授からの意見の概要は以下のとおりである。

優れている点：

- AI の最新情報が丁寧に解説されており、実践的な内容が学べる。
- ユーザ視点から情報社会の問題点などを学ぶカリキュラムが整備されている。
- 実社会でのデータ活用を意識した内容が組み込まれている。
- 修了証（オープンバッジ）を発行し、学生のキャリア形成を支援する仕組みが整っている。
- 自己点検・評価が丁寧に実施されている。

改善を要する点：

- 「情報処理概論」の前半部（コンピュータの基本構造）は文系学生には関心を持ちにくい可能性があり、AI・データサイエンスの基礎や「生成 AI」の実社会での活用事例を増やし、より実践的な内容へのシフトを検討されたい。
- 修了者数が少なく、その重要性を学生に周知させることが今後の課題。
- プログラムの認知度をさらに高めるため、広報活動を強化し、学生にプログラムの存在をより広く認知させる必要がある。

アドバイス：

- 学生のモチベーションを高めるために、資格試験（例：IT パスポート、基本情報技術者）と関連付けた運用を検討してはどうか。
- 企業や他大学との連携を強化し、最新の AI 技術やデータサイエンスの動向を取り入れた授業を展開するとよい。

10. まとめにかえて

10-1 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

【評価・改善】本教育プログラムは必修科目と選択科目を合わせて 3 科目の単位修得を修了要件とした。問題演習やグループワークなどをできるだけ取り入れた授業展開に必要な時間的余裕を確保し、学習量に余裕を持たせ、比較的緩やかなペースで反復しつつ内容をしっかりと学習・理解できる科目構成としている。このことで、確実に理解できたという充実感とともに、AI・データサイエンスを学ぶことの楽しさを実感することに繋げ、より発展的な学習に挑戦する動機づけを与えることができたと考えている。しかしながら、プログラムを意図せず履修している学生も多く見られることから、今後は、プログラムを意図的に履修する学生が増えるよう、周知に努めたい。

10-2 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

【評価・改善】授業の質を維持・向上しつつ、より分かりやすい授業とすることを目的として、

1）内部評価：学生アンケート、対象科目担当者による振り返り

2）外部評価：外部評価者（企業人、他大学教員）による意見聴取

を実施している。これらから得られた情報は、関係者間で共有され、教育プログラム全体の改善に役立てられている。また、本学の情報系教員が実習系授業の授業改善のために定期的に開催しているミーティングにおいて、本教育プログラム対象科目に関する情報交換を継続している。

「大阪商業大学 AI・データサイエンス教育プログラム(基礎)」
自己点検・評価報告書【2024 年度】

2025 年 5 月 23 日発行

大阪商業大学 情報教育委員会